

The Japan Association for Research on Testing

日本テスト学会

第 15 回大会

第 2 号通信

2017 年 5 月 19 日 発行 日本テスト学会第 15 回大会実行委員会

大会テーマ：

「真正な評価」への挑戦



期 日

2017 年 8 月 19 日 (土)・20 日 (日)

会 場

東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 40 (東北大学 川内キャンパス)

この第 2 号通信は、会員の皆様に基調講演及び各種シンポジウムの概要をお知らせするとともに、口頭発表者・連携発表者としてご発表予定の皆様またこれから発表を申し込まれる皆様に、第 15 回大会発表抄録集に掲載する「抄録原稿作成要領」(8 頁)をご案内するものです。ご発表予定の方におかれましては、「抄録原稿作成要領」にしたがって抄録原稿を作成いただき、期日までに大会参加登録サイトから登録をおこなってください。

日本テスト学会 第 15 回大会実行委員長 倉元 直樹

大会参加登録・抄録作成に関して

一般研究発表の申込み期限	： 2017 年 6 月 9 日 (金)
一般研究発表の発表論文抄録集原稿送付期限	： 2017 年 6 月 30 日 (金)
大会参加の事前申し込み・諸費用事前払込期限	： 2017 年 7 月 31 日 (月)

一般研究発表の抄録原稿の登録は大会 Web サイト (<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/jart2017/>) の各種申し込みリンクから行なってください。締切日と前日は、サイトへのアクセスが集中し、アクセスしにくい状態となることが予想されます。早目に抄録集原稿の登録をいっていただくようお願い申し上げます。差し替えを含む修正や抄録原稿の再登録も、2017 年 6 月 30 日 (金) 締切とします。

プログラムのご案内

公開企画

公開企画はどなたでも参加することができます。

公開企画 1

8月19日(土) 10:00～11:30

「センター試験のリスニングを皆で体験！」 企画：大会実行委員会

話題提供 内田照久先生（大学入試センター）

※本セッションは JSPS 科研費 JP16H02051 の助成を受けて行なわれます。

公開企画 2

8月19日(土) 13:00～15:00

「新体操はどのように採点されるのか」 企画：大会実行委員会

話題提供 河野 未来 先生（仙台大学 宮城県体操協理事）

新体操実演 仙台大学 新体操競技部

基調講演

8月19日(土) に下記の基調講演を予定しております。当セッションは大会参加費を納入した方のみ参加することができます。

基調講演

8月19日(土) 15:30～17:30 大ホール

講演題目 **「フィンランドの大学入試における CBT 導入とその改善について—母国語（フィンランド語）と保健科目からの例示—」**

講演者 ラッセ カンナス（Lasse Kannas）先生

（ユバスキュラ大学 スポーツ健康科学部 学部長, 教授）

コメンテーター 西郡 大 先生（佐賀大学）

基調講演は逐次翻訳（芬→日）を通して行われます。（通訳者：ラクソ 美奈子さん）

※本セッションは文部科学省委託事業（代表大学：北海道大学）の助成を受けて行なわれます。

フィンランドでは高等学校で学ぶすべての生徒が大学入学資格試験となる試験に参加する。これらはすべての高校において同時に年に2回、春と秋に実施される。これら試験により高校のナショナル・カリキュラムで提示されている各科目での内容について、その基準に見合うようどれほど良く習得されているかが判断されるものである。この試験ではまた、生徒の一般的な成熟度も判定するものとなる。

大学入学資格試験としては最少4科目の試験が含まれ、そのうち母国語（フィンランド語またはスウェーデン語）科目は受験者全員の必修科目となる。母国語科目は現時点では、記述能力試験と小論文試験の2つに分けられている。その他の3科目は、第二公用語、外国語、数学、及び一般科目から選択されなければならない。

フィンランドでは大学入学資格、及びそれに関わる試験が2016年秋期～2019年春期の期間中に段階的にデジタル化されていく。2016年秋期に最初にデジタル化された試験科目はドイツ語、地理、哲学であった。2017年秋期から開始となる科目は、第二公用語、宗教、倫理、保健、及び歴史である。2018年秋期から母国語科目のデジタル化が開始される。

基調講演ではより詳細に大学入学資格試験のデジタル化のプロセスについて説明する。電子的試験及びその解答への評価方法の開発改善については、すでにデジタル化が実施された一般選択科目の中で最も受験者数が多い保健科目を例にとり説明する。また、今後導入が予定されている母国語試験の意義について考察する。

シンポジウム

シンポジウムは、8月20日（日）に3つの企画枠を用意しております。当セッションは大会参加費を納入した方のみ参加することができます。

シンポジウム1

8月20日（日） 9：30～11：30 大ホール

「英語資格・検定試験の心理測定学的側面」

企画：研究委員会

司会 前川 真一 先生（東京工業大学）

松本 佳穂子 先生（東海大学）

話題提供 英検、ケンブリッジ英検、GTEC、IELTS、PTE、TEAP、TOEFL、TOEIC
（順不同）の開発担当の皆様（調整中）

近年の入試改革に伴い、大学入試センター試験に代わるものとして「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が構想されておりますが、その中の英語に関しては、民間のテストを活用しよう

という案が議論されています。

本セッションでは、現在名前が挙がっている英語の資格・検定試験の開発に携わってこられた方々にお集まりいただき、それらのテストの特徴、特に、その心理測定学的側面と CEF-R との関係に関してのご説明をいただき、テスト学会としてその情報を共有することを目的としています。

シンポジウム2

8月20日(日) 13:00~15:00 大ホール

「龍岡菊美先生&鮫島史子先生追悼セッション」 企画：研究委員会

司会 林 篤裕 先生（名古屋工業大学）
話題提供 池田 央 先生（立教大学名誉教授）
 村木 英治 先生（東北大学名誉教授）
 他（調整中）

テスト研究で著名な先生が昨年後半に立て続けて他界されました。お一人は Rule Space Method を提案された龍岡菊美先生(8月)であり、もうお一人は Graded Response Model(段階反応モデル)を提案された鮫島史子先生(11月)です。

そこで今夏のテスト学会では両先生を偲び、生前のご功績をたたえて追悼セッションを開催することにしました。本セッションではご親交のあった池田央先生や村木英治先生、柏木繁男先生(メッセージ紹介)、また龍岡先生の次男である Curtis Tatsuoka 先生(ビデオ出席予定)等(他にも打診中)、ご研究だけでなくお人柄を含めて振り返っていただく企画を計画中ですので、テスト研究のみならず女性研究者として海外で活躍された生涯の一端を感じていただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

シンポジウム3

8月20日(日) 15:15～17:15 大ホール

「大学入学者選抜改革推進委託事業『個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究 ～記述式問題を中心に～』研究経過報告」

企画：大会実行委員会

司会 倉元 直樹（東北大学 / 第15回大会実行委員長）

話題提供 岩間 徳兼 先生（北海道大学）

鈴木 慶子 先生（長崎大学）

宮本 友弘（東北大学）

コメンテーター 大塚 雄作 先生（大学入試センター）

※本セッションは、文部科学省委託事業（代表大学：北海道大学）の助成を受けて行なわれます。

現在進行中の高大接続改革の一環として、平成28年度から3か年計画で文部科学省による「大学入学者選抜改革推進委託事業」が始まった。同事業では主として教科を中心としたテーマごとに複数の大学がコンソーシアムを構成し、5つのプロジェクトを同時並行で走らせている。そのうち、人文社会科学分野（国語科）では、北海道大学を代表大学として合計5つの大学と機関が連携して事業を進めている。

本セッションは同委託事業の進捗状況報告である。研究計画を簡単に説明した上で、「問題の質・評価指標に関する教科教育学・教育評価に基づく分析」を担当するチームA（北海道大学、長崎大学等）、「問題の出題形式と測定する資質・能力の関係に関するテスト理論・測定学に基づく分析」を担当するチームB（東北大学）のそれぞれについて関連研究も含めて中間報告を行う。さらに、大学入試における「真正な評価」とは何かという観点も含め、フロアとともに「国語」を中心とした高大接続改革の意義と課題について討議を行う。

大会当日スケジュール（予定）

8月19日（土）

時間	大ホール	会議室 1・2 (80 名)	会議室 3 (40 名)
9:00 -	受付		
9:30 - 9:45	開会式		
10:00 - 11:30	公開企画 1	(セッション予備 1)	
11:30 - 13:00	昼休み		理事会
13:00 - 15:00	公開企画 2	(セッション予備 2)	
15:00 - 15:30	休憩		
15:30 - 17:30	基調講演		
17:40 - 18:20	総会		
18:30 - 20:30	懇親会 (キッチンテラス・クルール)		

8月20日（日）

時間	大ホール	会議室 1・2 (80 名)	会議室 3 (40 名)
9:00 -	受付		
9:30 - 11:30	シンポジウム 1 研究委員会企画	セッション 1	セッション 2
11:30 - 13:00	昼休み		編集出版委員会 (別会場)
13:00 - 15:00	シンポジウム 2 研究委員会企画	セッション 3	セッション 4
15:15 - 17:15	シンポジウム 3 実行委員会等企画	セッション 5	セッション 6

※口頭発表の申し込み状況や会場の都合で予定は変更される可能性があります。

昼食・休憩室・懇親会について

昼食・休憩室

8月19日（土）及び8月20日（日）両日とも東北大学生協食堂（キッチンテラス・クルールの予定）を10:00～17:30は休憩室としてご利用できます。

尚、両日とも11:00～14:00の時間帯は食事の提供をいたします。ご利用ください。

懇親会場

懇親会場は、東北大学生協食堂（キッチンテラス・クルール）を予定しています。開催時期に合わせ、ビアガーデン風を予定しておりますので、多くの参加をお待ちしております。

東北大学生協食堂（キッチンテラス・クルール）は会場から徒歩約5分です。

抄録集原稿作成要領

原稿提出期限：2017年6月30日（金）必着

抄録原稿はそのまま縮小してオフセット印刷し、論文抄録集に掲載されます。以下の要領に従って原稿を作成されるようお願い致します。

原稿は、大会 HP の発表申し込みフォームを通じて、送信、または、E メールに添付してお送りください。

E メールに添付して抄録原稿を提出された方には、受付後 2 週間以内に、確認のメールをお送りします。受付後 2 週間以上経過しても確認の連絡が届かない場合は、第 15 回大会事務局までお問い合わせください。なお、原稿に不備がある場合は、後日お問い合わせすることがございます。

抄録投稿（10 頁 フォーム参照）

(1) 発表 1 題につき 2 頁（本文約 2,800 字）としますが、さらに 2 頁に限り超過を認めます。

超過の場合は 4 頁になるように（余白頁を生じさせないように）してください。

(2) A4 判用紙を用い、上下に各 3cm、左右に各 2.5cm の余白を設けてください。

(3) レイアウトは以下のようにして下さい。発表題目以外は 10-12 ポイントの文字サイズとし、原則 2 段組みとします。

(ア) 1 ページ目

- ・ 1 行目：発表題目。大きめの文字サイズ（16 ポイント程度）で中央に書く。
- ・ 2 行目：空行（副題がある場合は 2 行目に書き、以下 1 行ずつ下にずらす）
- ・ 3-4 行目：発表者の氏名、所属。口頭発表者の氏名の先頭に○印をつける。連名発表者で所属が異なる場合は、¹や²などの記号で対応を明確にする。2 行で書ききれないときは、5 行目以降を適宜繰り下げる。
- ・ 5 行目：空行
- ・ 6 行目以降：本文

(イ) 2 ページ目以降：1 行目より本文を書く。

(ウ) 原稿末尾に連絡先（E-mail アドレス、会員番号）を記入することができる。

大会 HP の発表申込フォームによる抄録原稿の送付方法・注意事項

- (1) 原則として、PDF 形式原稿を、大会 Web サイトの投稿フォームを通じて送信して下さい。
Microsoft Word 文書 (.doc, .docx) も受け付けますが、印刷がずれる可能性があることをご承知おき下さい。
- (2) TeX 文書は、Adobe Acrobat や dvipdfm などのソフトウェアで PDF 形式に変換して提出して下さい。
- (3) 図表はあらかじめ電子的に貼り付け、別途作業の必要がないようにして下さい。
- (4) 原稿にページ番号は記入しないでください。
- (5) 特殊文字（外字など）が使用されている場合、印字されないことがあるので、使用しないでください。
- (6) 本文および図表は白黒印刷されます。
- (7) 送付先： 下記の大会 Web サイトの投稿フォームから、お送りください。

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/jart2017/>

日本語タイトル日本語タイトル日本語タイトル日本語タイトル
日本語タイトル日本語タイトル

○学会 太郎¹, 学会 花子¹, 佐藤 てす子², 鈴木 てす朗³

¹株式会社日本テスト会社、²日本テスト大学、³XX大学

1. 章タイトル

[illegible]

2. 章タイトル

2.1. 節タイトル

(1) 項タイトル

[illegible][illegible]

(2) 項タイトル

本文始□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
 □本文終.

a. 始□□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□□□□□□□□□□□□□
 □□□□終.

b. 始□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐☐
☐☐☐終.

2.2. タイトル

本文始□□□□□□□□□□□□□□□□

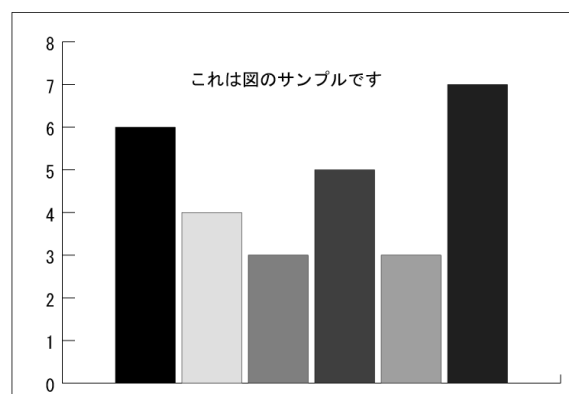


図 1 サンプル 1

□□□□□□□□□□本文終.

表1 サンプル1

項目	識別 パラメータ	難易度 パラメータ	チャンス 水準
図形 1	1. 2 2 3	- 0. 5 6 2	0. 2 3 1
図形 2	1. 5 4 6	0. 2 2 1	0. 1 2 3

始□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□終.

$$a + 2b + 3c = d \quad (1)$$

$$x + y = xy \quad (2)$$

XXX□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□終.

謝辭

始□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□終.

注釈

始□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□終

始□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□終.

文献

- Cronbach, L. J. (1951). Coefficient alpha and the internal structure of tests. *Psychometrika*, 16, 297-334.
- 池田央 (1992). テストの科学—試験にかかわるすべての人に— 日本文化科学社.
- Linn, R. L. (Ed.). (1989). *Educational measurement* (3rd ed.). New York: American Council on Education and Macmillan.
- Lord, F. M., & Novick, M. R. (1989). *Statistical theories of mental test scores*. Reading, MA: Addison Wesley. [池田央, 藤田恵璽, 柳井晴夫, 繁杵算男 (訳編) (1992). 教育測定学第3版 (上下) C.S.L.学習評価研究所.]
- 芝祐順(編) (1991). 項目反応理論—基礎と応用— 東京大学出版会.
- 山田太郎, 山田花子, 佐藤一郎, 鈴木かおり (2003). ヤマダテスト受験者データベース作成の試み. 日本テスト学会第1回大会発表論文抄録集, 103-106.

抄録集原稿登録 チェックリスト

「口頭発表抄録集原稿」を登録する際にあたり、下記項目に☑チェックが入るかをご確認ください。

1. 発表要件

- ☐ 参加登録を締切日までに済ませている。
- ☐ 口頭発表者は、会員資格を有し、年会費の納入を済ませている。

2. 研究発表の倫理的配慮

- ☐ 研究を行うにあたり所属機関などの倫理委員会の承認を得ている。
- ☐ 実験・調査の参加者あるいはテスト受検者からインフォームド・コンセントを得ている。
- ☐ 実験・調査の参加者あるいはテスト受検者のプライバシーを保障している。
- ☐ オリジナル（他所に投稿中、印刷中でない、あるいは公刊されていない）の研究発表である。
- ☐ 共同研究(指導学生の卒業論文、修士論文、博士論文も含む)のデータを利用するにあたっては、共同研究者やデータの管理者に了解を得ている。
- ☐ 先行研究の本文・図表・データ等を引用した場合、出典を明記している。
- ☐ 不適切あるいは差別的な用語や表現がない。

口頭発表の機器使用について

- ・ 会場にプロジェクターと HDMI ケーブルを用意します。ノート PC は持参してください。
- ・ 円滑な進行のために、発表開始前にセッティングや確認を済ませるようにしてください。また、発表の際は発表者自身でノート PC の操作をしてください。会場にいるスタッフは操作のお手伝いはできません。
- ・ 機器のメンテナンスを事前に実施しますが、万が一機器のトラブルが発生しても発表時間の延長や発表時間の変更はできません。
- ・ 万が一当日持参された PC に不具合が生じた場合は、事務局までお知らせください。予備の PC を貸し出します。

その他 口頭発表に関する留意事項

- ・ 配布資料は 50 部程度ご用意の上、当日発表会場にご持参ください。80 名以上の参加者が予想される場合は適宜必要部数をご用意ください。残部は口頭発表者・連名発表者の責任でお持ち帰りください。
- ・ 尚、大会実行委員会で配布資料を印刷することはできません。また、事前に実行委員会宛に配布資料を送付し、取り置くことはできません。
- ・ 発表抄録が配布資料として必要な場合は、各自印刷しご準備ください。
- ・ 発表会場及びシンポジウム会場での図書や教材などの販売はできません。
- ・ 研究発表を辞退する場合は速やかに大会実行委員会までご連絡ください。なお、すでに払い込まれた諸費用の返却はできませんのでご了承ください。

第 15 回大会発表賞のご案内

第 15 回大会では、大会発表賞を投票によって選出いたします。本大会発表賞は、テストの分野に関する研究、創作について、本会の大会において発表された報告、論文のうちから、今後の進展が期待され、推薦・奨励の対象にふさわしいと認められるものを選定いたします。原則として毎年若干数とし、総会において表彰を受け、1 万円の副賞が授与されます。参加者皆様からの投票をお待ちしております。

第 15 回大会 共催・後援

〔共催〕

東北大学高度教養教育・学生支援機構

文部科学省委託事業「個別学力試験『国語』が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究——記述式問題を中心に——（代表：北海道大学）」

科学研究費補助金基盤研究（A）課題番号：16H02051「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的問題評価」

〔後援〕

国立大学法人東北大学、宮城県教育委員会、仙台大学

第 15 回大会実行委員会

倉元直樹（実行委員長，東北大学高度教養教育・学生支援機構）

宮本友弘（事務局長，東北大学高度教養教育・学生支援機構）

田中光晴（幹事，東北大学高度教養教育・学生支援機構）

泉毅（教育測定研究所），小浜明（仙台大学），小松恵（岩手医科大学），河野未来（仙台大学），

石上正敏（東北大学高度教養教育・学生支援機構），庄司強（同左），樫田豪利（同左），秦野進一（同左）

問い合わせ先

Web サイト・受付に関する問い合わせ先

(株) J T B 東北法人営業仙台支店
「日本テスト学会第 15 回大会」係
E-mail : hsendai2@th.jtb.jp

発表・規定・その他大会に関する問い合わせ先

日本テスト学会第 15 回大会事務局
E-mail : jart2017@ihe.tohoku.ac.jp